令和4年度　学校関係者評価書　　研 研修部　人 人権・特支部　生 生活安全部　体 体力向上推進部　　◎10ポイント以上 上回っている。　○ 上回っている　△ 下回った　　鈴鹿市立旭が丘小学校

評価項目		本年度の活動(具体的な手立て)	活動指標	達成状況	成果指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
グローバルな視点で主体的に社会に発信する子ども	アクティブ・ラーニングを導入した教育活動 研	地域を舞台に自ら課題を見つけ、探究的に課題を解決するための主体的・協働的な授業を展開する。 一人一台端末(Chromebook)を日常的に活用することで、個別学習及びグループ単位での協働的な学習を行う。	学年による提案授業の実施　6回 定期的な家庭への持ち帰り (長期休業期間中の持ち帰り 平日:1週間に1回程度の持ち帰り)	○ ○	・全国学力・学習状況調査　児童質問紙「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」 80%以上　**結果【78.6%】** ・旭が丘小児童アンケート「思ったことや考えたことを発表している」80%以上 **結果【1、2年　84.9%】　【3年～6年　64.9%】** ・旭が丘小児童アンケート「クロムブックを使った勉強は楽しいですか。1、2年」「学習の役に立つと思いますか。3年～6年」 80%以上 **結果　【1、2年　97.4%】　　【3年～6年　94.8%】**	△ 1、2年 ○ 3～6年 △ 全学年 ◎	地域教材を取り入れた出会い学習を行い、地域に根ざした学習、体験をすることがで、新たな気づきを沢山得ることができた。 各学年で取り組んでいる探究的な学習内容は充実しているため、自信を持って取り組み、その成果を発信できる子に育てていくことが大切である。 2学期以降、クロムブックを週に1回家庭へ持ち帰り、課題の動画や写真を撮ったり調べ学習をしたりするなどの家庭学習に取り組んだ。不適切な使い方をする児童には、保護者の協力を得て指導してきた。	・総合的に現在の学習指導の成果が出ていると思う。課題への取り組みで更なる底上げを。 ・自分たちが住んでいる地域に関心が持てる良い取組だと思う。 ・歴史の浅い地域の学校として、取組が難しかったのではないか。 ・思ったことや考えたことが発表できる子の育成を。(3～6年の結果から) ・低学年からのクロムブックの活用により、効率よく幅広い教育ができ児童も楽しさを感じながら学習できている事はよい。 ・クロムブックは重いため持ち帰り時に配慮をお願いしたい。 ・クロムブックによる家庭学習にどの程度時間をかけているのか調査が必要と思う。	・地域と連携、協働した学習に今後も継続して取り組みます。 ・クロムブックを活用した効果的な学習や宿題の取組を一層進めます。(持ち帰り時は、重さへの対応を考えます。) ・主体的、対話的で深い学びに繋がる授業改善に努めます。
基礎・基本を身に付け、自ら表現する子ども	教科学習における授業改善 研	全国学力・学習状況調査や「みえスタディ・チェック」の結果を活用した授業改善を行う。	自校採点及び課題解決に向けた校内研修会の実施　2回	○	・全国学力・学習状況調査、「みえスタディ・チェック」の国語・算数の結果がいずれも全国・県平均正答率を上回る(4、5、6年)。 ・旭が丘小児童アンケート「授業はよく分かる」 80%以上 **結果【1、2年　88.9%】　【3年～6年　92.5%】** ・旭が丘小児童アンケート「宿題は自分から進んでやっている」90%以上 **結果【1、2年　89.7%】　【3年～6年　66.0%】** ・旭が丘小保護者アンケート「学校は子どもに分かりやすい授業をしている」80%以上　**結果　93.8%**	全国学力調査 △ みえスタディ ○ ○ △ ◎	学力調査の結果、4、5年生は県平均を大きく上回ったが、6年生は、全国平均を僅かに下回った。学力の上位層と下位層の二極化が見られる。 宿題に進んで取り組む割合が、中高学年になると減少している。一方で、自主学習に熟心に取り組む児童は多くいる。宿題が好きという子は多くはいないと思うが、学習習慣と学力の定着のため、特に小学校段階での家庭学習は必要である。	・学年が進むにつれ、興味関心のある教科が学習意欲につながり自主学習している姿をよく見かける。 ・宿題から自主学に繋がる課題の出し方が中高学年には必要だと思う。「宿題＝作業」になってきていて学びに繋がっているのか不安になる。 ・学級によって、宿題の量に差があることが子どもの会話からよく分かる。 ・家庭学習の意義を理解してもらい、保護者へも協力をお願いする。 ・学習習慣を身に付けるために宿題は必要、一方で、「ノー宿題デー」があってもよい。 ・宿題を進んでしない子の理由は何か、理解する必要がある。 ・二極化はやむ得ないが、下位層の底上げが必要。 ・読書をすることで読解力がつき、学力UPにも繋がる。 ・高学年の子にも、本を読む楽しさを伝えてほしい。 ・図書ボラさんの日々の活動には頭が下がります。	・学力定着のためには、家庭学習が大切であることを説明し、クロムブックでの宿題も工夫しながら、意欲や興味をもって取り組めるように努めます。 ・「ノー宿題デー」について検討します。 ・読書活動については、学校図書館巡回指導員との連携を密にし、また、図書ボラさんの協力を得ながら、各種イベントの開催等を通して、読書の楽しさ、大切さを伝えていきます。
	読書活動 研	各学年の系統性をもたせた学校図書館の活用を促進する。	学校図書館を活用した授業の計画的実施(各学年学期1回以上) ファミリー読書の取組　1回以上	○ ○	・旭が丘小児童アンケート「本を読むのが好き」 80%以上 **結果【1、2年　80.8%】　【3年～6年　66.4%】** ・旭が丘小保護者アンケート「お子さんは家庭でよく本を読んでいる」80%以上　**結果　39.7%　※一人当たりの貸出冊数:30.48冊(1月末)**	1、2年 ○ 3～6年 △ 保護者 △	低学年での本好きが、学年が上がると減少してくる。日常的に本に親しめるような働きかけが必要であると感じる。 図書ボラさんの活動は充実していてありがたい。		
豊かな感性をもち、自律した子ども	道徳教育 人	自ら考え、議論する道徳の授業を展開する。	学習内容を自分ごととして考えさせる機会を持つ(毎時間)。	○	・旭が丘小児童アンケート「友達と仲良くしている」 80%以上 **結果【1、2年　96.7%】　【3年～6年　98.1%】** ・旭が丘小児童アンケート「人が困っているときには、進んで助けている」(1・2年)、「人の役に立つ人間になりたいと思う」(3年～6年) 80%以上 **結果【1、2年　93.0%】　【3年～6年　96.0%】** ・保護者アンケート「思いやりや優しい心が育っている」 80%以上 **結果　94.8%**	◎ ◎ ◎	自分事として考え、仲間と議論する道徳の授業を行ってきた。アンケート結果は良好であるので、今後も、よりよい人間関係が構築できるような取組を進めていきたい。 集団生活を送る上で、日常的なトラブルは頻発している。指導の好機と捉え、粘り強く指導をしていきたい。	・「がんばっ10」が低学年のうちに身に付いていても高学年になるにつれて取組項目によっては達成感が低くなっているように思われる。 ・家庭でも友達との様子や学校での出来事を聞き、相談できることが大切だと思う。 ・指導成果が出ている。いじめ問題と関連してくる。「人を思いやる心」を育む指導を引き続きお願いします。 ・中高学年になると、友人だけでなく先生との関係性にも変化が出だし、先生の言動がおかしいと感じることも出てきている。幅広い人間関係についての調査も必要ではないかと思う。 ・コロナ禍であるが、心の通う「挨拶」をしてくれる児童が増えてきた。 ・3年間「おはよう」を繰り返していたら、ようやく目で応えてくるようになった。継続は大切。 ・朝の旗当番、お帰りパトロールで、子どもたちの半分位は自ら挨拶をしてくれる。声をかけるとほぼ全員挨拶ができる。	・「がんばっ10」の取組を通して、学習規律を意識させる取組を継続します。10項目全てのチェックとともにピンポイントで項目を絞って取り組むことで、「意識してやればできる！」という達成感を味わわせます。(マンネリ化の防止) ・生徒指導提要の改定を踏まえ、「一人の人間として大切にされている」と実感できる指導を心がけます。 ・児童会、代表委員による挨拶運動とともに中学校とも連携しながら粘り強く取り組みます。地域での温かい見守りと声掛けをお願いします。
	生徒指導 生	基本的生活習慣に関する課題に取り組む。	「がんばっ10」実施　年5回 そうじの「さ・し・す・せ・そ」を定着させるための重点取組　年3回以上	○ ○	・旭が丘小児童・保護者アンケート「学校のきまりを守っている」 90%以上 **児童結果【1、2年　93.7%】【3年～6年　89.4%】** **保護者結果　96.4%** ・旭が丘小児童・保護者アンケート「自分から挨拶をしている」児童、保護者80%以上 **児童結果【1、2年　87.1%】【3年～6年　85.2%】** **保護者結果　79.1%**	○ 児童 ○ 保護者 △	学習規律や掃除の仕方を確認するために、強化週間を設けて取り組んだ。取り組む内容を3/10に絞って意識させたことで、2学期後半の取組に成果がみられた。継続することが大切である。 毎朝、緑門で挨拶運動に取り組んでいる。目を合わせ会釈をして挨拶できる子が多い。		
健康、健康への意識を高めもつ子ども	体力・運動能力の向上	体力テストを活用した授業改善を行う。	体力テストの全学年実施	○	・全国体力・運動能力等調査で昨年度の全国平均以上の種目の割合(50%以上)	国からの調査結果待ち	全校で体力テストの実施を継続できているのは成果である。全学年とも投力に課題がある。	・コロナ禍での体力作りが大変だと思う。(水泳指導は今後の課題) ・家庭でも外で遊ぶ日を作ってもらう。(保護者の協力) ・体力調査結果を踏まえた体力UPの取組に努力を。 ・長時間スマホ使用の弊害は大きな課題。どのようなリスクがあるか根気よく指導が必要。 ・SNSに関する指導は、学校がきっかけを作り、家庭が主となり取り組む体制が良いと思う。ノーメディア以外の新たな取組も希望。 ・給食を通して食の大切さを学んでほしい。	・コロナ禍で低下した体力の回復に努めます。(水泳指導は市教委の方針のもと進めます。投力向上に繋がる体育委員会主催のイベントを行っています。) ・SNSの使い方の啓発に取り組みます(保護者参加型の出前教室の開催 等) ・栄養教諭と連携した食育に継続して取り組みます。
	健康に関する教育 体	家庭・学校三師(校医、歯科医、薬剤師)と連携した健康教育を推進する。 栄養教諭と連携した食育の授業を行う。	学校保健委員会　1回 各学年　年2回	○ ○	・全国学力・学習状況調査　児童質問紙「メディア利用3時間以上」 の割合10%以下　**結果　16.6%** ・給食センター調理校(12校)での残食量　**平均以下**	△ ○	毎日の長時間ゲーム、SNS等の使用時間が長い児童が多い。 各月とも平均以下の残量であった。食育授業や「空っぽ賞」の取組等の成果が出ている。		
人の多様性を認め合える子ども	人権教育 人	職員会や「見続ける子ども」の研修会で、課題を抱える子どもに対する現状と指導の共通理解を図り、取組を進める。 いじめアンケートを実施し、保護者と連絡を取り合いながら早急な課題解決を図る。	「見続ける子ども」の研修会を開催年2回 いじめアンケート　各学期1回 ピンクシャツ運動　年2回(4月、11月)	○ ○ ○	・全国学力・学習状況調査　児童質問紙、旭が丘小児童アンケート「自分には良いところがある」 80%以上　**結果【71.9%】** ・全国学力・学習状況調査　児童質問紙、旭が丘小児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 90%以上 **結果【1、2年　99.6%】【3年～6年　97.9%】** **【学力調査児童質問紙6年　95.0%】** ・保護者アンケート「学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している」80%以上　**結果　87.8%**	△ ○ ○	6年生は控えめに回答した子が多かったのではないか。良いところが見つけられるように、また、自信が持てるように、自己肯定感が高まる指導をしていきたい。 いじめへの正しい理解はできているが、遊びの中で軽い気持ちで友達を傷つけてしまう言動があった。様々な機会と通して、いじめ防止の啓発に取り組んでいく。	・登下校時の子どもたちの姿を見守ることから始めて、挨拶、声かけなどを通して見続けていきたい。 ・児童間のトラブルには迅速に対応してくれている。迅速に対応することで深刻ないじめに繋がる前に解決出来ていると思う。 ・いじめアンケートの結果と先生たちが感じているクラスの雰囲気やトラブルの発生件数があっているかを評価することが大切だと思う。 ・ピンクシャツ運動の発信は、今後も地域へ継続していってほしい。 ・保護者の協力が必要と思う。 ・今後も継続して取り組んでほしい。	・安心して勉強や学校生活が送れるように「チーム旭が丘」で指導に当たります。 ・家庭や地域での見守り、挨拶、声掛けを引き続きお願いします。家庭、地域とも情報共有を図り、連携して指導に当たります。 ・ピンクシャツ運動の家庭、地域への発信に努めます。 ・日頃からいじめに対するアンテナを高くして、指導します。
	特別支援教育 人	「すずかっ子支援ファイル」を活用した支援会議を実施する。支援の必要な児童を把握し、手立てを考える。	管理職も含めた特別支援コーディネーター会議　月1回以上	○	・支援会議の結果、児童、保護者の困り感(ニーズ)に応じて、専門性の高い医療機関や関係機関につなぐ。	○	発達課題や登校渋り等の困り感に応じて、保護者を交えた支援会議を開催してきた。医療機関、相談機関に繋げた事例も多い。長い目で見守っていく必要がある。		
	不登校対策 人	「鈴鹿市不登校対策初期対応マニュアル」やスクールライフサポーターを活用した働きかけを行う。	担任及びスクールライフサポーターによる家庭訪問の実施 ハートルームの設置	○ ○	・30日以上の長期欠席者の割合を昨年度以下(2.3%以下)にする。	2.3% 11月末時点	病気による欠席も含めた30日以上欠席の児童の割合は2.3%。スクールライフサポーターによる自宅への迎えを週3回行っている。様々な事情で遅れて登校する児童がいるため、今後も見守りたい。		
子どもが楽しく安心して学べる環境	地域と共にある学校づくり	学校運営協議会を開催する。 まちづくり協議会と連携した市制80周年記念レガシー事業を推進する。	年6回開催 卒業記念を兼ねた芝桜花壇の制作	○ ○	・保護者アンケート「学校は取組の様子を分かりやすく伝えている」 80%以上　**結果　89.1%** ・保護者アンケート「学校は特色ある教育活動に取り組んでいる」 80%以上　**結果　76.0%**	○ △	・HPの更新、学校・学年・学級だりの配付及び学校だよりの地域への回覧により、情報発信に努めてきた。 ・SDGsや充実したボランティア支援、まちづくり協議会との連携は大きな特色であるが、周知しきれていない面がある。	・HPの情報がタイムリーに発信されてきた。内容も充実し、保護者や関係者が学校の様子を身近に把握出来るようになった。修学旅行の様子を随時報告してくれたのは良かった。 ・学校だよりは、地域の情報も盛り込まれ、地域と繋がる広報紙として素晴らしい役目を果たしている。 ・学校と地域との連携は素晴らしいものが多々あります。例えば民生児童委員、クリーン旭が丘、まちづくり協議会との連携はとてもうまく行っているように感じます。 一方、まちづくり協議会と学校との関係を理解できていない保護者もいる。 ・レガシー事業とまちづくり協議会が連携でき、特色ある教育活動ができた。 ・不審者メールへの対応など、地域へ発信していただけるので動きやすい。 ・先生がするべき内容以外の業務が余りにも多いように感じる。(除草剪定のゴミは学校任せにせず行政が予算措置をするべき) ・定時退校の日を毎週設定してはどうか。	・「学校だより」、「学校HP」を通した積極的な情報発信に継続して取り組みます。 ・地域との連携・協働は、本校の大きな特色として捉え、今後も教育活動の充実に努めます。 ・まちづくり協議会と学校との連携を一層ご理解いただけるよう、取組内容の発信に努めます。 ・学校の働き方改革に継続して取り組み、総勤務時間の縮減に取り組みます。家庭、地域のご協力をお願いします。
	危機管理 体	危機管理に関する会議や研修会を実施する。	除去食研修会(エピペン使用研修会を含む)　1回	○	・保護者アンケート「学校は子どもの安全対策に取り組んでいる」 90%以上　**結果　92.0%**	○	施設の定期的な安全点検や食物アレルギー児童の誤食防止の取組等、児童の命や重大事態に繋がりかねない事については、研修会を開催したり職員間で共通理解を図ったりしなが細心の注意を払うようにしてきた。 学校生活上のけがは日々発生しているが、養護教諭が適切な措置をするとともに、担任等が保護者に連絡を入れて状況を説明している。重大なけがは、今年度も発生していない。		
	安全教育 生	各種教室を開催する。 ・情報モラル教室、薬の正しい使い方教室 ・交通安全教室(2年生と4年生) 各種避難訓練を実施する。	外部講師による出前授業の開催 避難訓練　年3回以上	○ ○	・けがによる保健室来室者数の割合　68.3%以下　**結果68.3%**	○ **昨年度比** **−3.9%**			
	働きやすい職場環境	総勤務時間の縮減に向けた取組を行う。	定時退校デーの実施　年24回以上 ※長期休業期間中は毎日	○	・時間外労働時間　30時間以下(一人当たりの月平均時間) ・休暇(年休、特別休暇)取得日数　22日以上(一人当たりの年間休暇取得日数) ・定時に退校できた職員の割合 90%以上 ※定時退校の設定日(月2回)	21.0時間 19.8時間 70.1% 【11月末】	業務内容の精選を図ってはいるが、様々な事案への対応があり、これ以上の縮減には限界を感じている。国レベルでの対応が求められている。		